

第153回 令和8年1月13日（火）

1月10日の土曜日は男女バスケ部の県大会を観に行きました。敗戦でしたが先の期待が持てる戦いでした。新人戦は現在地を確かめる大会です。目標に向けてどれくらいの歩幅が必要か確認できれば良いと思います。11日の日曜日はサッカー部のVS横浜翠嵐戦を観ました。ヒヤッとする場面もありましたが勝ちました。初戦は苦しいものです。まずは勝利おめでとう。

「海外に行くことについて。」

海外に行ってしばらく過ごしてから帰国すると日本語の看板や標識に違和感を覚えることがあります。何日か英語の看板や広告しか見ていなかったので、脳が慣れていないのだと思います。

不思議と1日、2日で日本語の看板に違和感がなくなり、そのうちに英語に囲まれていた記憶がすっかり薄れてしまいます。

日本国内では常識であっても海外ではそうではないことはたくさんあります。パプアでは信号をほとんど見ませんでした。交差点の多くは「ラウンドアバウト」という円形のものです。首都のポートモレスビーでは連日渋滞が発生します。それでも「ラウンドアバウト」が機能するのは譲り合いの精神が徹底されているからだと思います。日本でも渋滞防止に「ラウンドアバウト」の活用が議論されているようですが結構混乱するのではないかでしょうか。

日本は治安も良いですし、医療も教育も優れています。住みやすい国だと思います。良くアンケートで日本と韓国の若者は自己肯定感が低く、未来に希望が持てないとと言われますが「僕の未来は順風満帆だ。僕は何でもできる！」という自信満々の若者を見かけることはあまりありません。

これは東洋特有の謙譲や謙遜の文化があるからで、内心そう思っていても「自分の未来は順風満帆」という質問に5段階の5をつける人よりも、4とか3の中庸で「良」とする人のほうが多いからではないでしょうか。

海外で働くことで日本の良さが再確認できだし、日本に不足している部分も見えてきます。ぜひ若いうちから海外に目を向けてほしいと思います。

パプアの人たちは働くことがあまり好きではないのかもしれません。国立博物館も午後に行ったら「もう終わり」と閉まっていました。道端に多くの若者が座り込んで時間をつぶしています。あまりお金持になることに興味がないのと、同族のコミュニティーがあるので生活に困るということがないからだと思います。日本から海外協力隊で支援に来た人たちも困っている部分はたくさんありました。

それでも一人ひとりが本当に親切で温かい人たちでした。知らない人でも気軽に声をかけるし、競争やねたみ、ひがみなどがあまりないので自分らしく生きていて、自由であることを感じました。

私はパプアに行く前は「援助してあげたい」という気持ちが大きかったのですが、行ってみて日本が見習うべきものがたくさんあると思いました。特に子どもたちの心の問題はパプアに解決のヒントがあるような気がしました。

日本を飛び出して、日本を再認識する機会をたくさんつくってください。